

## V. 特記事項

### 1. 新百合ヶ丘の象徴的存在「テアトロ・ジーリオ・ショウワ」

本学の南校舎にある講堂「テアトロ・ジーリオ・ショウワ（以下、ジーリオ）」は、イタリア語で「昭和（音楽大学所有）のユリの劇場」の意味で、本学が所在する川崎市の標語「音楽のまち・かわさき」、麻生区の標語「しんゆり・芸術のまち」の象徴的な場になることを願い建立した。ヨーロッパのオペラ劇場が最も輝いていた時代の伝統を継承した馬蹄形客席は国内では大変珍しく、関東の大学でオペラ劇場を所有するのは本学だけである。ジーリオは、オペラやミュージカル、バレエ、オーケストラ、吹奏楽、ジャズ・ポピュラー音楽等、幅広い演奏会や公演に対応し、多くの学生の学修成果を発表する場となっている。それだけではなく、卒業生を中心として結成された「テアトロ・ジーリオ・ショウワ・オーケストラ」の本拠地であり、地域の音楽芸術イベント「アルテリッカしんゆり（川崎・しんゆり芸術祭）」や「かわさきジャズ・フェスティバル」、その他多くの団体にも利用される等、開設当初の願いのとおり、新百合ヶ丘地域を代表する象徴的な存在となっている。

### 2. 日本初、世界初の取組み

舞台芸術の企画・運営・制作等のための人材養成を目的としたアートマネジメントコースの開設（平成 6(1994)年度）、音楽大学での司書課程の開設（平成 24(2012)年度）、神奈川県内で博士号が取得できる博士後期課程の開設（平成 26(2014)年度）、同博士後期課程での音楽療法の博士号の取得（平成 29(2017)年度）、これらは日本の大学としては「初」の取組みである。本学の母体となる声楽研究所の創立（昭和 5(1930)年）においても、日本でいち早く「総合的なオペラ教育」を理念に掲げ声楽家の育成に励み、本学園のオペラ公演でローマ教皇庁の要請により「ダヴィデ王」の世界初演（昭和 58(1983)年）を果たす等、本学の歴史の始まりから現在に至るまで、「初」の取組みに挑戦し続けている。

### 3. 新型コロナウイルスへの対応

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和 2(2020)年度の前期授業を 5 月から遠隔で開始し、その後レッスン等を対面で再開、同年 6 月中旬からは全面的に対面授業を展開し今日に至っている。対面授業の開始にあたっては消毒液、検温器、アクリル板、パーティション、フェイスシールド等感染防止対策を十分に行い、また、従来の独自奨学金に加え、学生一人 10 万円の緊急奨学給付金の支給や、朝食補助に加えて夕食補助の追加支援を卒業生の会である同侪会と協同で実施する等、教職員が一体となって、学生の学びを確保する取組みを行った。

これら本学の取組みについては、同年 9 月実施の学生満足度調査において、学生から 30 件を超える感謝のコメントが寄せられた。